



# 令和3年産の春作業まであと少し! 作業計画に基づき健苗育成に努めよう!

昔から、「苗半作」と言われるように、水稲栽培にとって良い苗を生産することは、収量確保に大変重要です。近年、天候不順によって収量が不安定な傾向にあります。天候に左右されない稲づくりを継続するために、積極的な土づくり資材の投入(田華の豊稲)と健苗の適期移植で初期生育確保に繋げましょう。

## 「ばか苗病・もみ枯細菌病」対策のポイント!

- ①作業場所やその周辺から伝染源となる稲ワラ、籾殻、米ヌカ、粉塵等を除去し、十分な掃除をする。
- ②昨年「ばか苗病」「もみ枯細菌病」の発生が見られた場合は、種子消毒、浸種、催芽に使用する機器並びに容器等(桶、育苗箱、\*催芽機)は消毒剤(消毒剤はご相談ください)等で消毒する。また、マルチや有効ポリは再利用せず更新する。  
※催芽機は希釈液を循環させる。

## 塩水選・種子の準備

- ①塩水選でより良い種子の準備
- ②塩水選後には、必ず品種、採種地の確認をし、種子に関する記録を残しましょう。
- ③品種の混入に注意してください。  
※袋での色分け、品種名ラベルを付け確認できるようにしましょう。

品種	塩水選の比重	水10ℓ当りの目安	
		塩(kg)	硫酸(kg)
うるち	1.13	2.01	2.56
もち	1.08	1.22	1.50

☆塩水選後は、水道水で水洗い作業を丁寧に行いましょう。

## 種子消毒方法

### ●温湯消毒

(ばか苗病・もみ枯細菌病・苗立枯細菌病・いもち病・イネシンガレセンチュウ)

- ①種籾を60℃～62℃の温湯に、10分間浸種した後、直ちに流水中で冷却します。冷却後、浸種作業ができない場合には、衛生的で風通しのよい場所に広げて保管し、適切な時期に浸種を開始する。
- ②浸種は、種子乾燥の3倍以上の水道水(10kgあたり30ℓ以上)とし、菌を増殖しにくくするため、2～3日に1回は水交換する。
- ③温湯消毒した時点の種子は殺菌されているが、その後の不衛生な管理では菌が付着する可能性があるので注意する。

### ●薬剤消毒 薬剤名 テクリードCフロアブル + スミチオン乳剤

(ばか苗病・もみ枯細菌病・苗立枯細菌病・いもち病) + (イネシンガレセンチュウ)

- ①種子消毒は、浸種前に行い、消毒後は水洗いせずに浸種する。
  - ②薬液水温は10℃以上～15℃未満を厳守する。(天気予報を確認し比較的暖かい日に実施する)
  - ③太陽光が直射する日向では、薬液の温度が上がったり、薬剤成分が分解したりする為、屋内または日陰で行う。
  - ④テクリードCフロアブルは、種子乾籾の2倍以上の容量の希釈薬液を準備しよくかき混ぜること。(乾籾10kgの場合、20ℓの薬液が必要)
  - ⑤テクリードCフロアブルの倍率は、水20ℓに対し薬剤100mlの200倍としスミチオン乳剤20mlを加用し、24時間浸種する。(乾籾10kg分)
  - ⑥種籾を薬液に漬ける際は、袋の一つ一つ中まで薬液が染み渡るように3～4回ゆすってから容器に沈め、24時間浸種する。
  - ⑦消毒終了後は日陰で2～3日風乾し、種籾の表面に薬剤が固着するまで乾かすと防除効果が高まる。
- ※使用する器具により、亜鉛性のものは劣化させることがあるので注意ください。



テクリードCフロアブル  
100ml 704円  
(500ml入もあります)



スミチオン乳剤  
100ml 385円

(価格は税込み当用価格です)

### ●微生物防除 薬剤名 エコホープDJ (環境こだわり奨励薬剤)

(ばか苗病・もみ枯細菌病・苗立枯細菌病・いもち病)

- ①種子消毒は、浸種前から催芽時までの時期に使用することができます。
- ②薬液水温は、10℃以上～30℃未満を厳守する。
- ③エコホープDJは、種子乾籾の2倍以上の容量の希釈薬液を準備しよくかき混ぜること。(乾籾10kgの場合、20ℓの薬液が必要)
- ④エコホープDJの倍率は、水20ℓに対し薬剤100gの200倍とし24時間浸種する。(乾籾10kg分) 種籾を薬液に漬ける際は、袋の一つ一つ中まで薬液が染み渡るように3～4回ゆすってから容器に沈める。
- ⑤処理後は風乾せず直ちに浸種或いは催芽を行ってください。



エコホープDJ  
100g 1,078円

(価格は税込み当用価格です)  
※生菌の微生物農薬(有効成分は生菌)であるため受注発注となります。

次号で **浸種・催芽** **土壌消毒** **育苗管理** についてご紹介します!